

平成29年度事業報告

平成29年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県地域福祉部長、県議会議長及び遺族の参列を得て、11月11日～13日まで2泊3日の日程で実施した。事業の次世代育成への寄与を目的として、昨年度に引き続き孫・ひ孫の参列者について自己負担を半額として募集し、8名の参加を得ることができた。

【参加人員 46名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県へ広報を依頼するなど広く参加者を募ったものの、遺児の高齢化などの理由により参加者の確保はできなかった。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に役員が参列し、追悼の言葉を述べるなど英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 25ヶ所、 追悼電報対応 8ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖國神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

また、平成30年1月11日から1月26日までの会期14日間、本会が協賛団体となって、東京九段の昭和館ほか2館により巡回特別企画展「戦中戦後の暮らし・高知展」が開催された。会期中に9,145人の来場者があり、盛況裏に開催することができた。昭和館が会期中実施したアンケートでも、「正確な事実を知ることができた」、「平和の大切さを改めて思い知った」など、開催の意義を大きく評価する意見が寄せられた。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、県とともに遺族団を引率・参列するとともに、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参拝し戦没者の追悼を行った。

・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 60名

(子26名 兄弟姉妹3名 孫4名 その他27名)

付添職員等 11名 [県職員、遺族会役員等]

2. 広報啓発事業

遺族会報を毎月5,400部発行し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。なお、本年から会報発行を隔月としている。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに希望者に配布し(月450部)、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、これまで活動の中心となってきた遺児の高齢化に伴い、遺族会の活動や組織維持についての方向、それに関連しての戦没者遺族の処遇改善、財源の確保など多くの課題を抱えている。

こうした課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための研修会を開催するなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動の推進

次の会議にそれぞれ代表を派遣し、遺族の処遇改善等の運動を展開した。

・全国戦没者遺族大会

日本遺族会が12月8日に都内で開催した第73回全国戦没者遺族大会に全国の遺族代表約400人が参集し、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上を訴えた。

本県からは、会長・副会長をはじめ7名が参加するとともに、地元選出の自民党所属の国会議員5名に対して、総理・閣僚の靖国神社参拝の定着、特別弔慰金の支給要件の見直しなど戦没者遺族に対する処遇の改善などの陳情を行った。

【全国代表 400名参加（本県7名）】

・日本遺族会中国・四国ブロック遺族会会議

29年度は広島県が当番県として10月30日と31日の両日、広島市内で開催され、日本遺族会及び中・四国9県が参加した。

会議では日本遺族会からの中央情勢についての報告の後、各県提出議題の検討が行われ、後継者育成問題、忠霊塔の維持管理について議論が交わされた。

【50名参加 本県4名】

・青年部の組織化に向けた研修会と結成式の開催

日本遺族会は、後継者組織となる「青年部」の活動に向け、平成30年2月18日に全国から155人が参集し、女性部との合同研修会及び青年部第一回総会を開催した。本県から女性部長ら2名と孫2名が出席、分科会や総計での検討・協議に参加し、青年部が正式発足の運びとなった。

【全国参加者 155名（オブザーバー等を含む） 本県4名】

(2) 老人福祉事業

100歳、85歳を迎えた戦没者の妻を遺族大会で表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 15名、85歳 1名（未表彰者）】

(3) 女性部事業

日本遺族会が行う青年部との合同研修会への参加や壮年部との合同研修会を開催するなど女性部指導者としての資質向上に努めた。

本年の壮年部との合同研修会は、二泊三日の宿泊研修として、会員ら35名（うち孫等9名）が参加し、京都府・大阪府方面において実施した。

京都霊山護国神社、海上自衛隊舞鶴駐屯地、舞鶴引揚記念館などの視察研修を行った。

(4) 壮年部事業

戦後70年余が経過し、遺族会を実質的に担うのは遺児の世代になって久しい。遺族会が置かれている厳しい現状を認識し、今後とも英霊顕彰、遺族福祉の向上などの遺族運動を推進していくために、女性部と合同で、(3)のとおり研修を実施した。

(5) 遺族大会

県民挙げて、平和を祈念し英霊顕彰に取り組んでいくことを目的に、遺族運動の現状や課題等について議論し情報の共有化を図るため、高知県戦没者遺族大会を開催した。

29年度の大会は、7月16日にドリーマーベイシャトーで、下記のとおり開催した。

- ・参加者 313名
- ・公演 演者 佐喜浜古式行事保存会俄部会 上田庄吾氏ほか
- ・演題 「戦争なき平和な地球」

